

宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(17)

－ 2025度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果－

Issues in education for the First-Year Student at UTSUNOMIYA KYOWA UNIV.

(17)

－ Class Reports and the Results of a Questionnaire Survey －

松 田 勇 一

MATSUDA Yuichi

概要

本稿では、宇都宮共和大学における2025年度の初年次教育科目「基礎ゼミ」の授業報告と、本科目を受講した学生に対する意識調査の結果を示した。授業報告では、本科目の目的、方法、概要を示した。意識調査では、大学生活、今後の勉強、基礎ゼミに大別し、各項目に関する質問とその回答結果を示した。

キーワード：初年次教育 基礎ゼミ 授業報告 意識調査

1 はじめに

本学では、2016年度より初年次教育科目として必修の「基礎ゼミ」が開講され、松田(2017)等ではその授業報告と意識調査の結果を示した。2021年度からは、全新入生に対してクロームブックを配布し、基礎ゼミにおいてはグーグルクラスルームを通じて課題の提示、提出等を行っている。本稿では、2025年度「基礎ゼミ」の授業報告と、本学における初年次教育の課題を提示することを目的とする。

2 授業概要

本学部の基礎ゼミは新入生の必修科目であり、大学生活を送るために必要なアカデミック・スキルを身に付けてもらうのが大きな役割である。本科目では、学生の出身校、性別等を考慮して5つのクラスを編成した。1クラスあたりの学生数は9～10名であり、各クラスに担当教員が1名配置された。また、秋学期にクラス再編を行い、ゼミ構成員、担当教員が替わるようにした。

2.1 目的

2025年度の基礎ゼミの目的は、昨年度と同様、以下の通りである。

- (1) 大学での学び方、学生生活の送り方を学ぶ。
- (2) 2年次のゼミへ向けて、調査・研究の基礎を学ぶ。

- (3) 卒業後の人生に目を向け、学生時代の過ごし方について考える。
- (4) 週間日誌の作成を通して、自己管理能力、自立学習を身に付ける。
- (5) 作文を通して、基本的な書く能力を習得する。
- (6) 各種課題の口頭発表を通じて、プレゼンテーションの基礎を身に付ける。
- (7) 合同講義を通じて、教科書の内容をより深く理解し、アカデミック・スキルを身に付ける。
- (8) クロームブックを活用し、課題を電子データとして提出することができる。
- (9) 学期末にパワーポイントを用いて、今後の研究について発表することができる。

2.2 授業の方法と内容

2025年度基礎ゼミは、受講者48名（日本人学生45名・留学生3名）を5クラスに分けた。各クラスには担当教員を配置し、授業時間、内容は5クラス全て統一した。そのため、毎回の授業前には、5人の担当教員が打ち合わせを行い、当日の流れや課題、提出物等を確認し合った。なお、秋学期にはクラスの再編を行った。

授業は、初年次教育のためのテキスト（川延他編2011）を用いて行った。テキストを用いた授業は、5クラスに分かれて実施した。基本的には教科書の内容に沿って進めたが、教科書の途中で全てのゼミ合同での講義（ノートテイキングやレポートの書き方等）や発表等を行った。2021年度からは1年生全員にクロームブックを配布し、学内のICT教育を推進しているが、2025年度においても基礎ゼミの最初にクロームブックについての説明会を合同で行った。授業の具体的な内容は以下の通りである。

学期	回	内容
春 学 期	1	クロームブックの使い方（5クラス合同／高丸教員）
	2	テキスト第1章「さあ、はじめよう」
	3	テキスト第2章「勉強のリズムを作ろう」
	4	テキスト第3章「大学で学ぶということ」
	5	ノートテイキング（5クラス合同／松田教員）
	6	テキスト第4章「困ったことはありませんか」
	7	テキスト第5章「大学はワンダーランド」
	8	テキスト第6章「自分を守る、他人を守る」
	9	テキスト第7章「キャンパスツアー」
	10	発表「キャンパス周辺の〇〇場所」〇〇は自由（5クラス合同）
	11	発表「キャンパス周辺の〇〇場所」〇〇は自由（5クラス合同）
	12	レポートの書き方（5クラス合同／松田教員）
	13	テキスト第8章「生活プランをどう立てるか」
	14	消費者カレッジ（5クラス合同／就職委員会主催）

秋 学 期	16	キャンパスハラスメント防止啓発研修・クラス再編 (5 クラス合同)
	17	テキスト第 9 章「卒業したらどうするか」
	18	キャリアガイダンス (5 クラス合同/就職委員会主催)
	19	発表「夏休みの課題：私の〇〇場所」〇〇は自由 (5 クラス合同)
	20	発表「夏休みの課題：私の〇〇場所」〇〇は自由 (5 クラス合同)
	21	大学祭ポスター展示 (「夏休みの課題：私の〇〇場所」〇〇は自由)
	22	テキスト第 10 章「生活と人生のデザイン」
	23	テキスト第 11 章「研究テーマを考える」
	24	テキスト第 12 章「研究を進める」
	25	テキスト第 13 章「研究報告をまとめる」 テキスト第 14 章「プレゼンテーションとレポート」
	26	最終発表リハーサル・質疑応答 (各クラス)
	27	最終発表「これから研究したいこと」(5 クラス合同・1 人 5 分)
	28	最終発表「これから研究したいこと」(5 クラス合同・1 人 5 分)
	29	最終発表「これから研究したいこと」(5 クラス合同・1 人 5 分)
	30	卒業研究発表会聴講 (4 年生の卒業研究発表を聴講し評価する)

基礎ゼミでは、課題として「週間日誌」を2週間に1度、グーグルフォームの記述式テキスト形式で提出させた。内容は、「新たに学んだこと・気づいたこと」100字以上、「週間報告—この2週間で印象に残った出来事」200字以上、「作文」200字以上で提出させた。課題は提出期限を定めてグーグルクラスルームを通じて学生に通知した。なお、週間日誌の採点は各クラスの担当教員が行い、期日までに提出された場合は2点、遅れて提出した場合(締め切り週金曜日まで)は1点、未提出の場合は0点とした。

また、春学期の発表「キャンパス周辺の〇〇場所」の写真データ、秋学期の「夏休みの課題：私の〇〇場所」の写真データ、最終発表「これから研究したいこと」のスライドデータは、全てグーグルクラスルームで指示を出し、提出させた。なお、今年度の最終発表は、昨年度までの1人3分から1人5分に延長し、またスライドの枚数を10枚とし、発表内容の充実を図った。

2.3 成績評価

ポートフォリオ(週間日誌)40%、テキストのワークシート40%、発表20%とした。単位取得の為に各発表は必須とし、単位認定は出席2/3以上の者を対象とした。

3 意識調査

3.1 調査概要

調査は、2025年度基礎ゼミの最終回（最終発表後）において実施した。回答した学生数は、春学期、秋学期共に日本人学生42名、留学生2名であった。また、調査はグーグルフォームを利用し、回答は5段階評定法、及び自由回答法によった。調査票は大学生生活全般について、これからの勉強について、基礎ゼミについて、に分かれている。

3.2 結果と考察

以下、質問と共に集計結果を示す。

3.2.1 大学生生活全般について

大学生生活全般に関する質問（①宇都宮共和大学に入って良かったと思う ②大学生生活に満足している ③大学生生活は楽しい ④大学生生活は役に立っている ⑤大学の施設・設備に満足している ⑥大学周辺の環境に満足している ⑦大学の授業に満足している ⑧大学の授業は楽しい ⑨大学の授業は役に立っている ⑩大学の授業は難しい ⑪教員の教え方や対応に満足している）の結果を示す。これらの質問については、5段階評定法（1全然そう思わない、2あまりそう思わない、3どちらとも言えない、4少しそう思う、5とてもそう思う）により回答を得た。

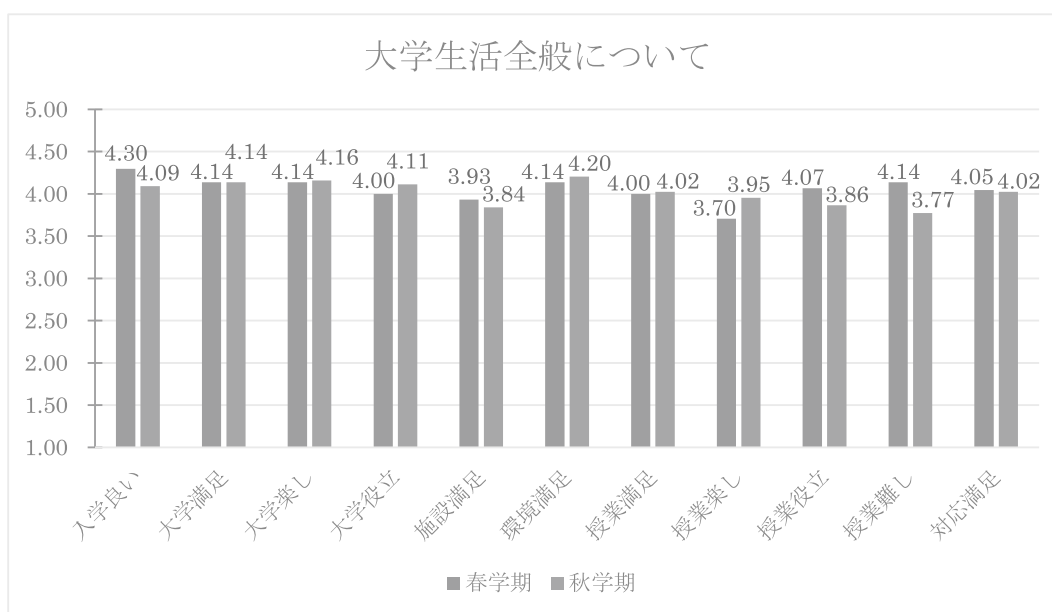


図1

まず、今年度も昨年度同様、多くの項目において4.0を超えた。春秋を比較すると、③大学生生活は楽しい、④大学生生活は役に立っている、⑥大学周辺の環境に満足している、⑦大学の授業に満足している、⑧大学の授業は楽しい、において春学期よりも秋学期の方が数値が高くなっており、大学生生活に慣れ親しんでいる様子がうかがえる。

次に、大学生生活、大学の施設、授業、教員の対応等について、不満な点、意見等を回

答してもらった結果を示す。なお、回答方法は自由記述によった。

【自由記述：春学期】

- ・まだなれない
- ・狭い
- ・1階から2階の食堂への階段に滑り止めが無く、また材質も同じで視認性が悪く転びやすい。
- ・2種類の英語の授業について、難易度が乖離しすぎている。これで評価の差が着くのが納得できません。
- ・駐車場が欲しかった
- ・講義の質は先生によって振幅が大きいと感じた。
- ・周りが結構授業を飛んだりするので、その影響がこちらに来ないといい。授業はついていけても、根本的な理解になっていなかったり、課題が追いつけなくなる不安

【自由記述：秋学期】

- ・学食が少ない。
- ・厚生棟をもっと自由に使いたい。
- ・1階正面の大階段の足元の視認性が悪く、特に下る際に踏み外しやすく、尚且つ滑り止めも無いので転倒しやすく危険だと感じます。1度1段見間違えて転倒し、捻挫したことがあるので、宜しければ対応をお願いします。

以上のような意見が見られたが、教育厚生棟については昨年も同様の意見が見られたが、これはコロナ禍において特別に学生の使用を認めていた影響が未だに残っているためかと思われる。また、ある外国語科目について意見も昨年同様である。これらの意見を踏まえ、2026年度からは同一科目を複数の教員で担当することはせず、一人の教員が担当することとなった。階段の滑り易さについても意見があったが、これは施設の安全性にかかわることであるので早急に対応が求められよう。秋学期の意見に、「周りが結構授業を飛んだりするので、その影響がこちらに来ないといい」とあった。これは2025年度新入生の特徴の一つであったが、授業態度が悪かったり、授業を休む学生たちと真面目な学生たちが、明確に分かれていた。この意見は真面目な学生の意見と思われるが、このような学生が安心して大学生活を送れるような雰囲気づくりをする必要がある。

3.2.2 これからの勉強について

「これからの勉強について」は、10項目の質問（①自分の関心がある専門分野を集中的に勉強したい ②できるだけ様々な分野を広く勉強したい ③履修科目は、自分の興味関心で決めたい ④履修科目は、卒業要件を満たせば良い ⑤資格試験などに積極的に

取り組みたい ⑥大学院進学に向けて勉強したい ⑦授業の単位を一つでも多く取りたい ⑧出来るだけ良い成績で単位を取りたい ⑨積極的に大学の施設などを利用していきたい ⑩積極的に先生に指導を受けたい)を設置した。回答は、5段階評定法（1全然そう思わない、2あまりそう思わない、3どちらとも言えない、4少しそう思う、5とてもそう思う）によった。

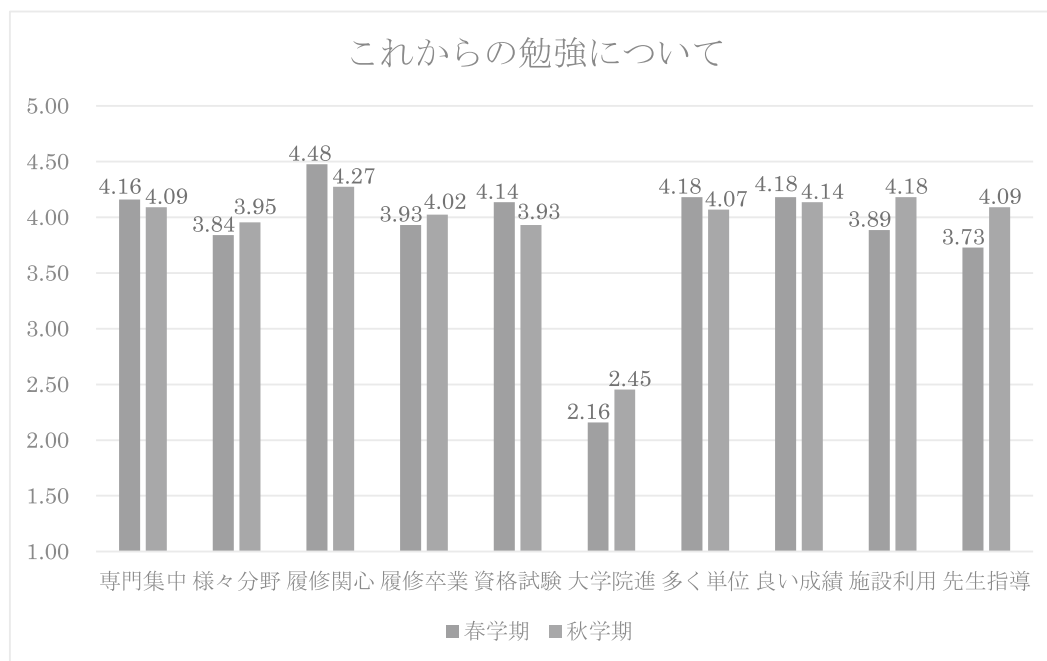


図2

まず、全体の結果を見ると、⑥大学院進学に向けて勉強したい、以外は3点台後半から4点台となっている。春秋を比較すると、特に⑨積極的に大学の施設などを利用していきたい（春3.89 秋4.18）、⑩積極的に先生に指導を受けたい（春3.73 秋4.09）、が春学期よりも秋学期が高くなっている。大学生活に慣れ、学生ホールや教育厚生棟等の施設利用が促進されたことや、2年次以降のゼミが確定し、指導教員が決定したことなどが、数値上昇の要因ではないかと考えられる。

次に、これからの勉強について自由回答してもらった結果を示す。

【自由記述：春学期】

- ・むずい
- ・自分が何を専門として勉強していけばいいのか正直分からない
- ・テストへどんな心構えでいたらいいのか分からず不安。もう少し早くテストの時間割を出して欲しい。
- ・最終的な目標が首位での卒業なので頑張りたいが、早々に勉強で挫けそう。やること

多すぎてちゃんとできているのか、どこまで全力注げないといけないのかわからず、このままだとヒート・アップして限界迎えそう。

【自由記述：秋学期】

- ・資格の勉強をしたい
- ・成績をトップ取り続けたいがどこかで失敗しそう。もともと頭がよいわけではないので変に勘違いされたくはない
- ・これからも興味がある授業があるかどうか少し心配です。あとちゃんとレベルについていけるかどうか心配かな。

以上の記述が見られ、例年のことではあるが、春学期は授業の難しさ、テストに対する不安感を感じていることが分かる。また、秋学期は資格取得や成績の維持など、さらなる向上を目指す一方、これまで通り維持できるかどうかの不安感も見て取れる。

3.2.3 基礎ゼミについて

基礎ゼミについては、基礎ゼミ全般について9つの質問（①基礎ゼミは楽しかった ②基礎ゼミは役に立った ③基礎ゼミを通じて友人ができた ④基礎ゼミは少人数に分けられていて良かった ⑤基礎ゼミでのグループでの話し合いは楽しかった ⑥クロームブックで課題を作成することは良かった ⑦課題（新たに学んだこと・気づいたこと）は良かった ⑧課題（週間報告）は良かった ⑨課題（作文）は良かった）を設置した。

作文テーマは、2024年とは一部を変更した。2025年度のテーマは、春学期は「自己紹介」、「高校時代の一番の思い出」、「私の親友」、「私の名前の由来」、「私の自慢」、「私の趣味」、「私の家族」、「春学期の総括」、秋学期は、「私の春学期と夏休み」、「私の長所と短所」、「私の宝物」、「私の好きな本」、「私が一番感動したこと」、「20歳までにやりたいこと」、「10年後の自分」、「1年間の総括」であった。昨年度から変更したのは、「私が一番感動した映画」→「私が一番感動したこと」、「もし生まれ変わったら」→「20歳までにやりたいこと」、「将来の夢」→「10年後の自分」である。「映画」を変更したのは、「私の好きな本」と同一の作品である場合が多いためである。「もし生まれ変わったら」を変更した理由は、ほとんどの学生が「また自分に生まれたい」と回答するため、自分自身であるならば身近な1年後、2年後の自分を考えてほしいと考えたためである。「将来の夢」も具体的に年数を示し、そこまでにどのようなキャリアプランニングをできるかを考えさせたかったからである。

各回の授業については、基礎ゼミの教科書『プレステップ基礎ゼミ』（第1章～第14章）と合同講義（「クロームブックの使い方」、「ノートテイキング」、「キャンパス周辺の発表をしたこと」、「レポートの書き方」、「夏休みの課題発表」、「大学祭での展示」、「最終発

表りハーサル」、「最終発表」)に関する質問である。

以上の設問回答は、5段階評定法（1全然そう思わない、2あまりそう思わない、3どちらとも言えない、4少しそう思う、5とてもそう思う）によった。

【基礎ゼミ全般について】

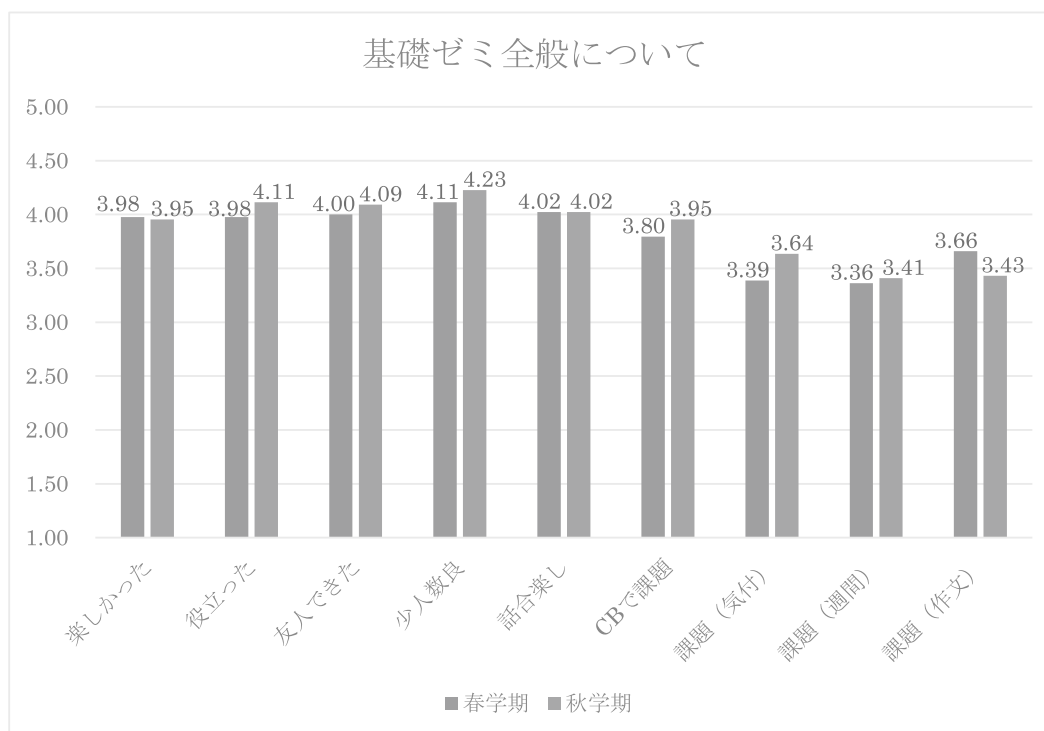


図3

まず、春学期、秋学期を通して4.0を超えたのは、③基礎ゼミを通じて友人ができた、④基礎ゼミは少人数に分けられていて良かった、⑤基礎ゼミでのグループでの話し合いは楽しかった、の3項目だった。少人数での話し合いを通じて友人ができたということは、基礎ゼミの目的としては掲げていないが、仲間づくりという大きな役割が果たせたのではないと思われる。課題の3項目は例年、数値が高くないのだが、今年度も同様となった。しかし、学生が自身の学びを振り返り、成長を確認できるよう、今後も継続していきたい。

次に、基礎ゼミ全般について自由回答してもらった結果を示す。

【自由記述：春学期】（秋学期は記述無し）

- ・2週間ごとに書くのが難しい
- ・グループを作るときにいつも同じ人がいたのでもっとランダムに色々な人と取り組みたい。
- ・今学期の基礎ゼミが先生にも友人にも恵まれて良かったが、その分来学期の基礎ゼミ

である特定の先生が苦手なので

以上のような回答が見られたが、グループワークでのメンバーの入れ替えは個々の教員に一任しているが、いつもメンバーが同じにならないように教員間で共通認識として持たなければならない。また、特定の教員が苦手だという意見もあったが、人の好き嫌いはあるにせよ、学生に媚びるということではなく、我々教員は学生から苦手意識を持たれないように、これまでも増して自分を律していくべきであろう。

【作文テーマについて】

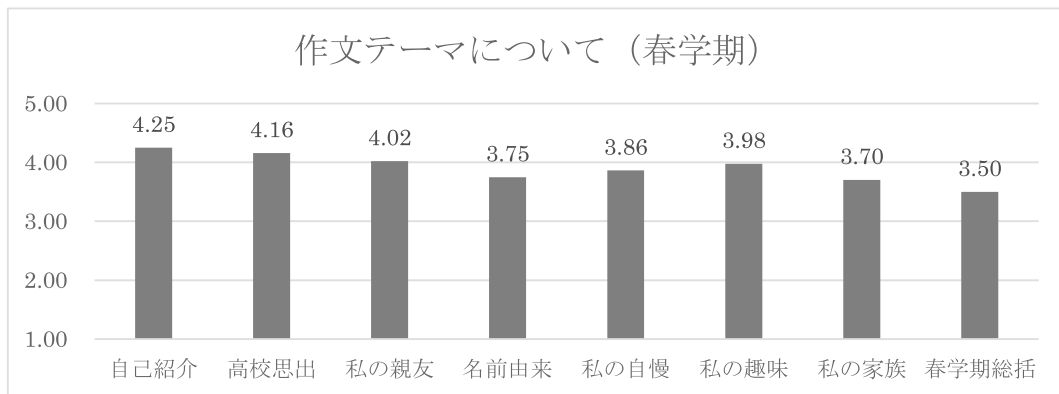


図4

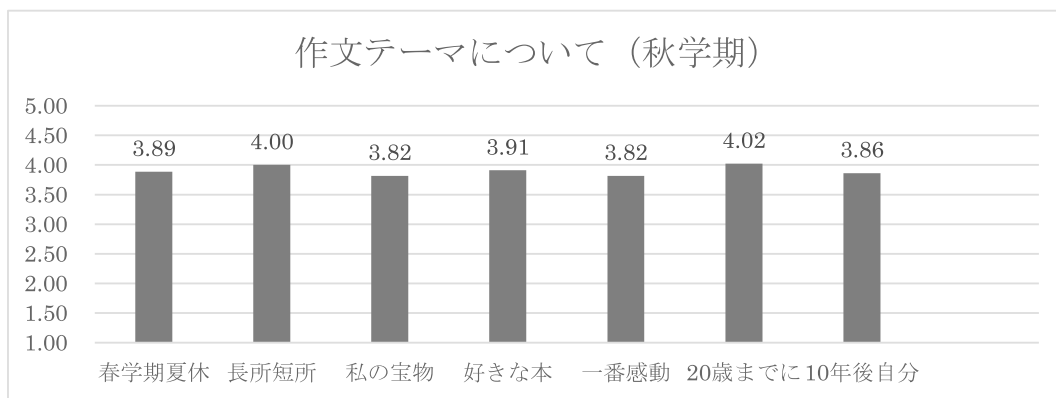


図5

作文のテーマについて、評価が高かったものが「自己紹介」4.25、「高校時代の思い出」4.16、「私の親友」4.02、「私の長所と短所」4.00、「20歳までにやりたいこと」4.02であった。変更した「私が一番感動したこと」3.82、「20歳までにやりたいこと」4.02、「10年後の自分」3.86と、比較的高い数値であったので、来年度以降も継続したい。

次に、作文のテーマとして取り上げてほしいものについて自由回答してもらった結果を示す。

【自由記述】

- ・これまで困っている授業
- ・バイトについて、将来の夢

以上の記述が見られたが、困っている授業等の苦情や困りごとについては、習慣日誌に「質問・要望等があれば記入してください。」と別枠で記入欄を設けているので、そちらに記入するように今後も徹底していきたい。

【教科書について】

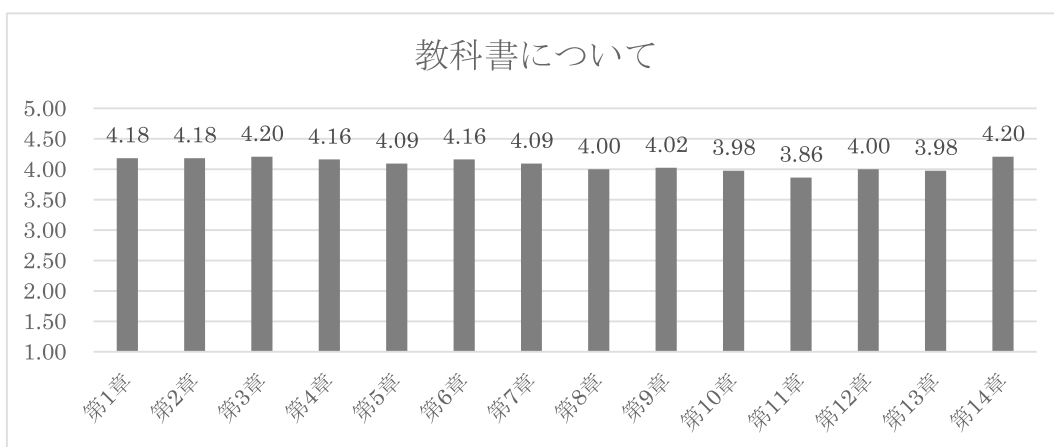


図6

教科書については、ほとんどの章で4.0以上となり、概ね高評価だった。

【各回の授業について】

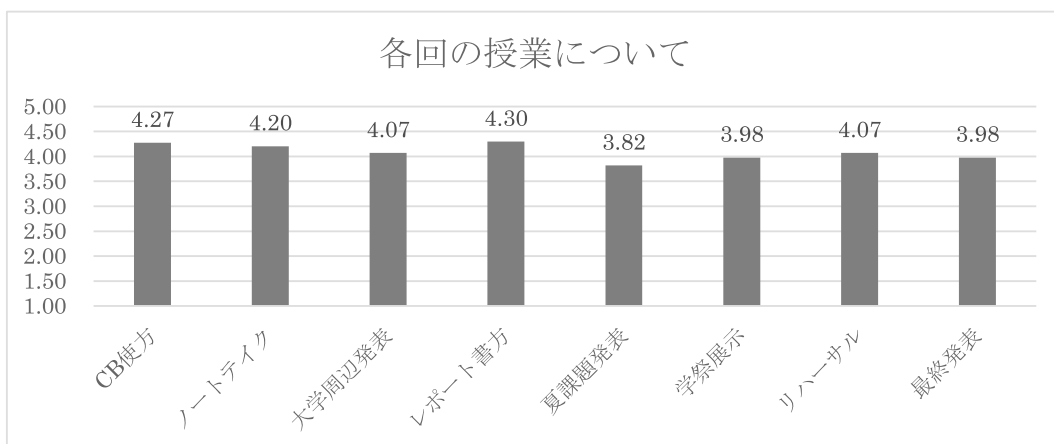


図7

各回の授業については、⑤夏休みの課題発表、⑥大学祭展示、⑧最終発表が3点台となった以外は4点台であった。夏休みの課題、大学祭展示については、「私の〇〇場所」として課しているのだが、写真を1枚のみとしているので制限があり、自由度が低かったのかもしれない。来年度は、写真1枚とせず、自由度を挙げてスライドを複数枚作成させる等を試みてみたい。また、最終発表は、今年度は発表時間をこれまでの3分間から5分間に延長した。テーマは「これから研究したいこと」として自由に設定させているが、内容は玉石混交でアンケートを実施し、数値を分析している学生もいれば、インターネットの情報をそのまま張り付けたり、自分の感想を述べるだけの学生もいる。来年度は、公式発表されている数値データなどを基にした研究発表を課題としたいと考えている。

【自由記述：春学期】（秋学期は記述無し）

- ・レポートの書き方はもう少し早くやって欲しかった
- ・こうして大学生活の基礎を考える時間が設けられているのは良いと思うが、教科書が高く、必修にするのはどうかと思った。自宅学習では使わないため、プリントの配布でも良いのではと考えた。
- ・特にはないが、メンバーによっては良い活動ができなさそう

以上のような回答が得られた。レポートの書き方は例年、期末課題が提示される前の7月上旬に実施しているのだが、授業によっては学期中に作成するレポートなどもあるため、早い時期の実施を求める声があったのかもしれない。また、春学期に「メンバーによっては良い活動ができなさそう」、という意見があったが、これは3.2.1で述べたとおりだが、真面目な学生が不真面目な学生とのグループ活動を危惧しているものと考えられる。グループ分けは、春学期と重複しないように機械的に行っているのだが、学生の人間関係等を踏まえた方が良いのかもしれない。

4 まとめと今後の課題

2025度の基礎ゼミでは、作文のテーマの一部変更、最終発表の時間延長（3分間から5分間に）と、松田（2025）で課題とされた点を改善すべく実施した。作文テーマは概ね肯定的な結果となったが、最終発表は学生間の優劣が激しく、内容の底上げが必要と感じた。来年度は、インターネット上に公開されている公式データなどを用いて、その数値を基にどのような問題点があるのか、どのような改善策が考えられるのか、等を学生に考えさせ、研究の始めの一步となるような工夫をしたいと考えている。また、夏休みの課題についても写真1枚と限定するのではなく、スライドを用いたストーリー仕立

での発表になるように課題を設定したいと考えている。

謝辞：2025年度の基礎ゼミでは、本学の漆戸宏宣准教授、渡辺靖明専任講師、坂口豪専任講師、三浦魁斗専任講師には、円滑な授業運営・クラス活動のためご協力をいただき、また毎回の教師ミーティングの際にはご助言をいただきました。ここに心から感謝申し上げます。

【参考文献】

川延宗之・川野辺裕幸・岩井洋編（2011）『プレステップ基礎ゼミ』弘文堂

松田勇一（2017）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題（8）－平成28年度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学シティライフ学論叢』第18号

松田勇一（2025）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題（16）－2024年度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学シティライフ学論叢』第26号